

至急

送達 滿發第九四三三號

筆 楊 版 用

陸軍次官本新



松密代官部業發云

油沙軍部令部凱旋次第状況
通有之美百の通標支也

陸 軍

54

滿洲軍總司令部凱旋次第概況

一總司令官以下十二月四日午前七時十分廣島發、
列車より東京、直行し六日午前十時三十九分
新橋に著し直に参内ス

二停車場に於て出迎者ノ位置ヲ別表ノ如ク規
定ス

三總司令官 官中ニ参内シ作戰ノ經過ヲ奉告ス
次第ニ別ニ規定ス

四官中ノ武裝ヲ總司令官以下 官中ノ退出シ
大本營陸軍部ニ参集シ然ル後解散ス
五新橋停車場より 官中ハ、官中ヨリ

大本營ハノ道筋左ノ如シ

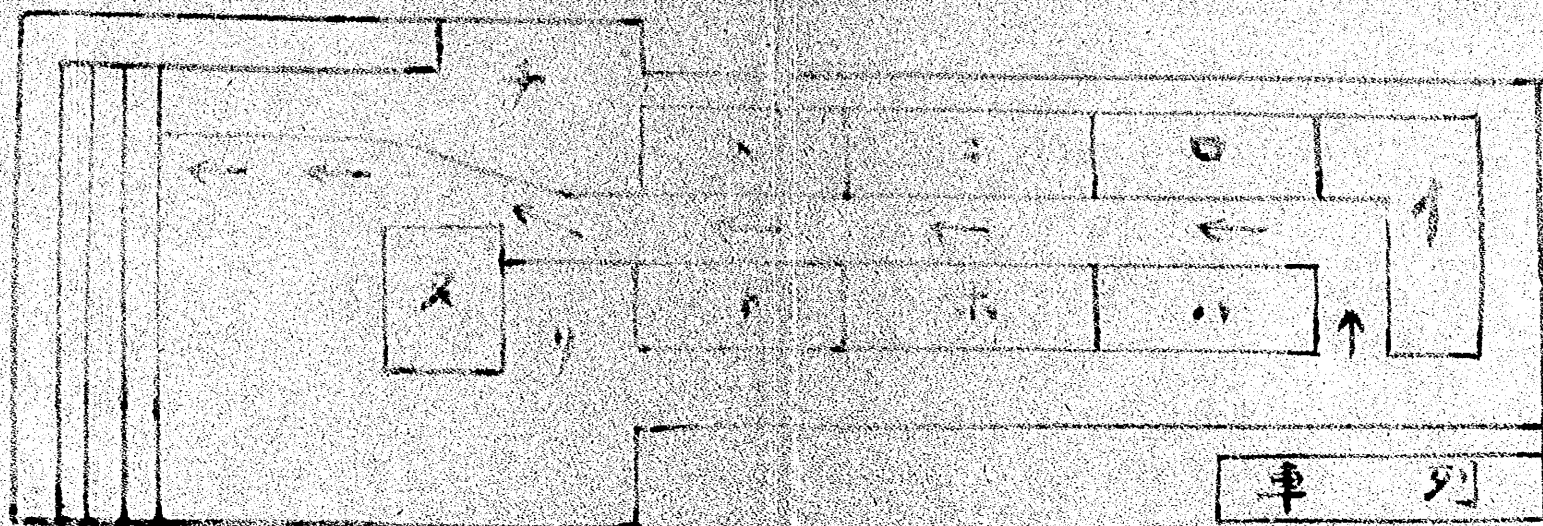
一新橋停車場ヨリ二葉町通右ハ新幸町幸

橋ヲ入り左ハ内幸町通右ハ外務省前通

リ櫻田門ヲ入り正門御車寄

二正門ヨリ櫻田門ヲ出テ壕端通ハ大本營正

門ハ



イ親仕官大臣侍遇者

口海軍武官

ハ陸軍武官

ニ高等官及准高等官

ホ高等官及准高等官

ヘ府中職人

ト書記官

チ各課長及課員

リ一般公務員

又切符賣場

其他外國紳士及出立者

ア臨時臨時出立者

筆 稿 版 用

馬車

滿洲軍總司令部凱旋際於此馬車及人力車ノ配置

第一号 大山元帥 尾野中佐

第二号 児王大将 渡辺少佐

第三号 井口少將 古川少佐

第四号 松川少將 馬村少佐

第五号 田中中佐 市瀬少佐 安藝大尉

第六号 小池中佐 曾田少佐 小澤大尉

第七号 三原少佐 川崎少佐 藤村大尉 田中大尉

第八号 小澤總監 河野中佐

第九号 中山大計監 今井中佐

原本不明瞭

第十号 彦原中佐 山崎大尉 川口大尉 山崎大尉
人力車

第一号 村上中尉 第五号 坂井主計
第二号 松尾大尉 第六号 三宅中尉
第三号 鶴田主計 第七号 森中尉
第四号 鈴木主計 第八号 辻井主計

高等文官

第九号 有賀博士 第十四号 平島通譯
第十号 飯田書記官 第十五号 木谷雇員
第十一号 長川教授 第十六号 一通譯
第十二号 遠藤教授 第十七号 市川通譯

筆 楊 版 用

第十三号 末吉通譯 第十八号 軍地通譯

陸 軍

陸軍省

陸軍省

明治三十八年六月二日

筆 楊 版 用

主 急

陸軍省 陸軍部 第九三三號

明治三十八年十二月六日

陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部



陸軍省 陸軍部 陸軍部 陸軍部

新橋停車場あり、於ては海軍部より、
印及大本營陸軍部、人車、位
置、及利便、可等、海軍部、由、決、定、の
間、及、由、決、定、の

陸 軍

滿洲總司令部員人及官吏車入車庫地方

凱旋門

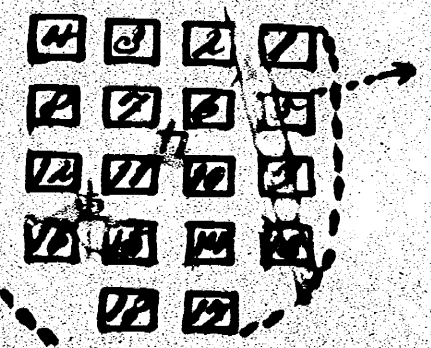
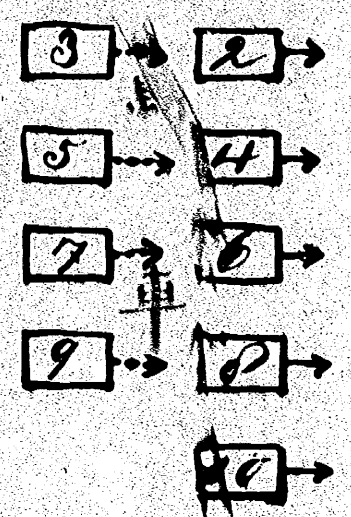
御名刺受所

行進方向

停車場

御名刺受所

滿洲總司令部



大本營出迎者
來馬及人力車置場

十月
二日 庶受三八第



歌用

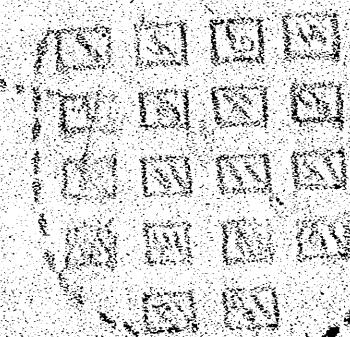
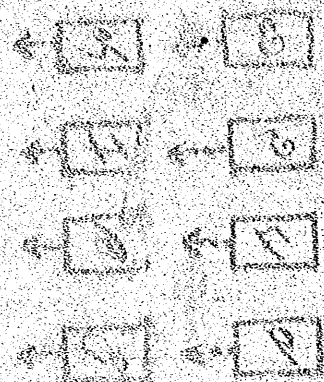
明倫彙編 家範典 卷一百一十五

陸軍次官石本新六

樞密以爲方子執策慙之以

油沙軍送月令部一本月廿凱旋歸來、
信定、三月廿六日愈七日、若素、子、確言
美、可、年、亦、平、度、美、

近戶溪爲古名，時有新梅落，時刻
未夕，修短，接上尤爲分一。線下，



大才當出此書
清德人自能知

事、あると、上に被_レ存_ス、上に尤_モ以_テ榮_ス、上に可_シ

晴庶受五八第廿四號

續發第九

1961年1月

五言古詩



松窗文集卷之四

油沙一平弦令部
本音与安十时辛
九分破之美条
及通曉也

陸軍